

2026年3月期（2025年度） 第2四半期（中間期）決算説明会

代表取締役社長 竹花泰雄

2025年11月6日

 **キッセイ** 薬品工業株式会社

2026年3月期 中間期決算サマリー

KISSEI

1. Beyond 80 初年度の中間期業績

- ✓ 売上高：45,831百万円（7.9%増）
 - ・ 医薬品事業（4.7%増）、その他の事業（28.3%増）ともに増収
- ✓ 営業利益：△6,837百万円、経常利益：△5,622百万円、中間純利益：7,784百万円（48.3%増）
 - ・ 研究開発費（技術導入費用含む）を主とした販管費が増加し、営業損失、経常損失となるものの、投資有価証券売却益を特別利益として計上し、中間純利益は増益
- ✓ 研究開発費：16,328百万円（130.3%増）
 - ・ 海外第Ⅲ相臨床試験実施中のVeligrotugおよびVRDN-003（いずれも甲状腺眼症治療薬）の導入、開発テーマのステージアップなどにより大幅増加

2. 医薬品事業

- ✓ 売上高：38,347百万円（4.7%増）
 - ・ 国内医薬品（4.8%増）：ベオーバ、タブネオス、コルスバ、タバリスの伸長
 - ・ 海外ライセンス（5.6%増）：輸出売上の増加

リンザゴリクス	サーチライトファーマ（カナダ）	2025年10月に技術導出契約締結
	シンモサバイオフーマ（台湾）	2025年10月に子宮筋腫を適応症として台湾で販売承認取得
ホスタマチニブ	JWファーマ（韓国）	2025年7月に韓国で新発売

開発パイプラインの進捗状況（国内）



一般名/開発番号	予定適応症	開発状況
リンザゴリクス	子宮筋腫	承認申請中（2025年2月に承認申請）
	子宮内膜症	PⅢ試験実施中（2025年3月より開始）
Cretostimogene grenadenorepvec	筋層非浸潤性膀胱がん	国際共同PⅢ試験にて良好な臨床成績（24ヵ月データ）を取得
ロバチレリン	脊髄小脳変性症	追加PⅢ試験実施中（2025年3月より開始）
Matsupexole	パーキンソン病	後期PⅡ試験実施中（2024年8月より開始）
Olutasidenib	急性骨髄性白血病	2025年7月よりPⅠ試験（PK試験）開始
KSP-0914（CC-001）	バセドウ病	2025年8月よりPⅠ試験開始
Veligrotug	甲状腺眼症	2025年7月に技術導入契約締結
VRDN-003		

2026年3月期 中間期決算

KISSEI

(百万円)

	2025年3月期 中間期		2026年3月期 中間期			
	実 績	構成比	当初見通し (2025年7月)	実 績	構成比	前年同期比
売上高	42,466	100.0%	44,300	45,831	100.0%	7.9%
医薬品事業	36,633	86.3%	37,200	38,347	83.7%	4.7%
国内医薬品 ^{※1}	31,258	73.7%	32,200	32,766	71.5%	4.8%
海外ライセンス ^{※2}	3,574	8.4%	3,200	3,775	8.3%	5.6%
ヘルスケア食品	1,800	4.2%	1,800	1,806	3.9%	0.3%
その他の事業	5,832	13.7%	7,100	7,483	16.3%	28.3%
売上原価	21,068	49.6%	22,400	23,143	50.5%	9.8%
売上総利益	21,397	50.4%	21,900	22,688	49.5%	6.0%
販管費	19,616	46.2%	29,600	29,525	64.4%	50.5%
研究開発費	7,091	16.7%	16,600	16,328	35.6%	130.3%
営業利益	1,781	4.2%	△7,700	△6,837	△14.9%	—
経常利益	2,237	5.3%	△6,900	△5,622	△12.3%	—
中間純利益 ^{※3}	5,249	12.4%	6,200	7,784	17.0%	48.3%

(包括利益)

(1,447)

(10,001)

※1 国内販売提携先供給額、コ・プロモーションフィーを含む ※2 ライセンスアウトに係る契約金、マイルストーン収入、ランニングロイヤリティ、輸出の合計額 ※3 親会社株主に帰属する中間純利益

売上高の前年同期比較（実績）

（百万円）

増収要因

2025年3月期
中間期

42,466

医薬品事業売上高

+ 1,714

増減内訳

国内医薬品

+ 1,507

海外ライセンス

+ 200

ヘルスケア食品

+ 6

その他の事業売上高

+ 1,651

2026年3月期
中間期

45,831（前同比+3,365）

・薬価改定などの減収要因はあったもののベオーバ、タブネオス、コルスバ、タバリスの伸長などにより増収

・輸出売上が増加

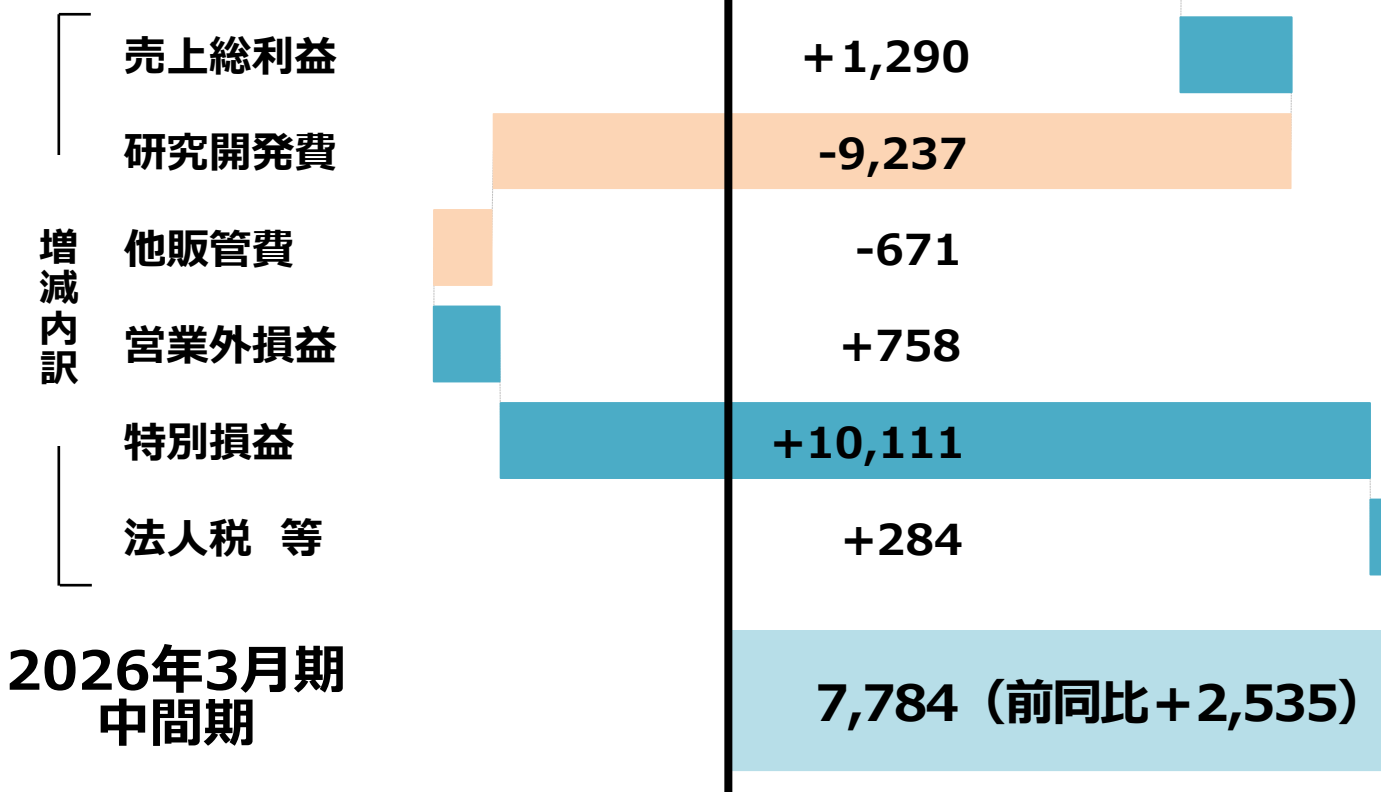
・情報サービス事業、建設・施設メンテナンス事業
および物品販売事業がともに増収

中間純利益の前年同期比較（実績）

KISSEI

（百万円）

2025年3月期
中間期



増益要因

減益要因

増収による増益

Veligrotug、VRDN-003の技術導入、
臨床開発テーマの推進

営業活動経費等の販売費の増加

有価証券評価益の計上、為替差損の減少

投資有価証券売却益の増加

2026年3月期修正計画サマリー

KISSEI

1. 業績見込み

✓ 売上高：95,500百万円（8.1%増）

- 当初見通しより4,000百万円増加の95,500百万円に修正し、過去最高を更新する見込み
（内訳：医薬品事業 +2,500百万円、その他の事業 +1,500百万円）

✓ 営業利益：△2,600百万円、経常利益：△1,100百万円、当期純利益：12,700百万円（6.2%増）

- 営業利益と経常利益は、売上高の増加により、当初見通しより、それぞれ1,400百万円および1,500百万円改善
- 当期純利益は、増益を見込む

2. 医薬品事業

✓ 売上高：78,000百万円（3.6%増）

- 国内医薬品（5.0%増）：ベオーバ、タブネオス、コルスバ、タバリスの主力4製品の伸長
- 海外ライセンス（7.3%減）：技術料 900百万円（59.3%減）
輸出 6,300百万円（13.3%増）

2026年3月期修正計画



(百万円)

	2025年3月期		2026年3月期 予想			
	実 績	構成比	当初見通し (2025年7月)	修正計画	構成比	前期比
売上高	88,330	100.0%	91,500	95,500	100.0%	8.1%
医薬品事業	75,299	85.2%	75,500	78,000	81.7%	3.6%
国内医薬品	63,975	72.4%	65,800	67,200	70.4%	5.0%
海外ライセンス	7,770	8.8%	6,100	7,200	7.5%	△ 7.3%
ヘルスケア食品	3,553	4.0%	3,600	3,600	3.8%	1.3%
その他の事業	13,031	14.8%	16,000	17,500	18.3%	34.3%
売上原価	44,265	50.1%	47,100	49,700	52.0%	12.3%
売上総利益	44,065	49.9%	44,400	45,800	48.0%	3.9%
販管費	38,291	43.4%	48,400	48,400	50.7%	26.4%
研究開発費	12,889	14.6%	23,000	23,000	24.1%	78.4%
営業利益	5,773	6.5%	△4,000	△2,600	△2.7%	—
経常利益	6,974	7.9%	△2,600	△1,100	△1.2%	—
当期純利益 [※]	11,961	13.5%	12,300	12,700	13.3%	6.2%

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

■ 利益配分に関する基本方針

累進配当（普通配当）を継続するとともに、配当性向40%以上を目指す

■ 自己株式の取得・処分

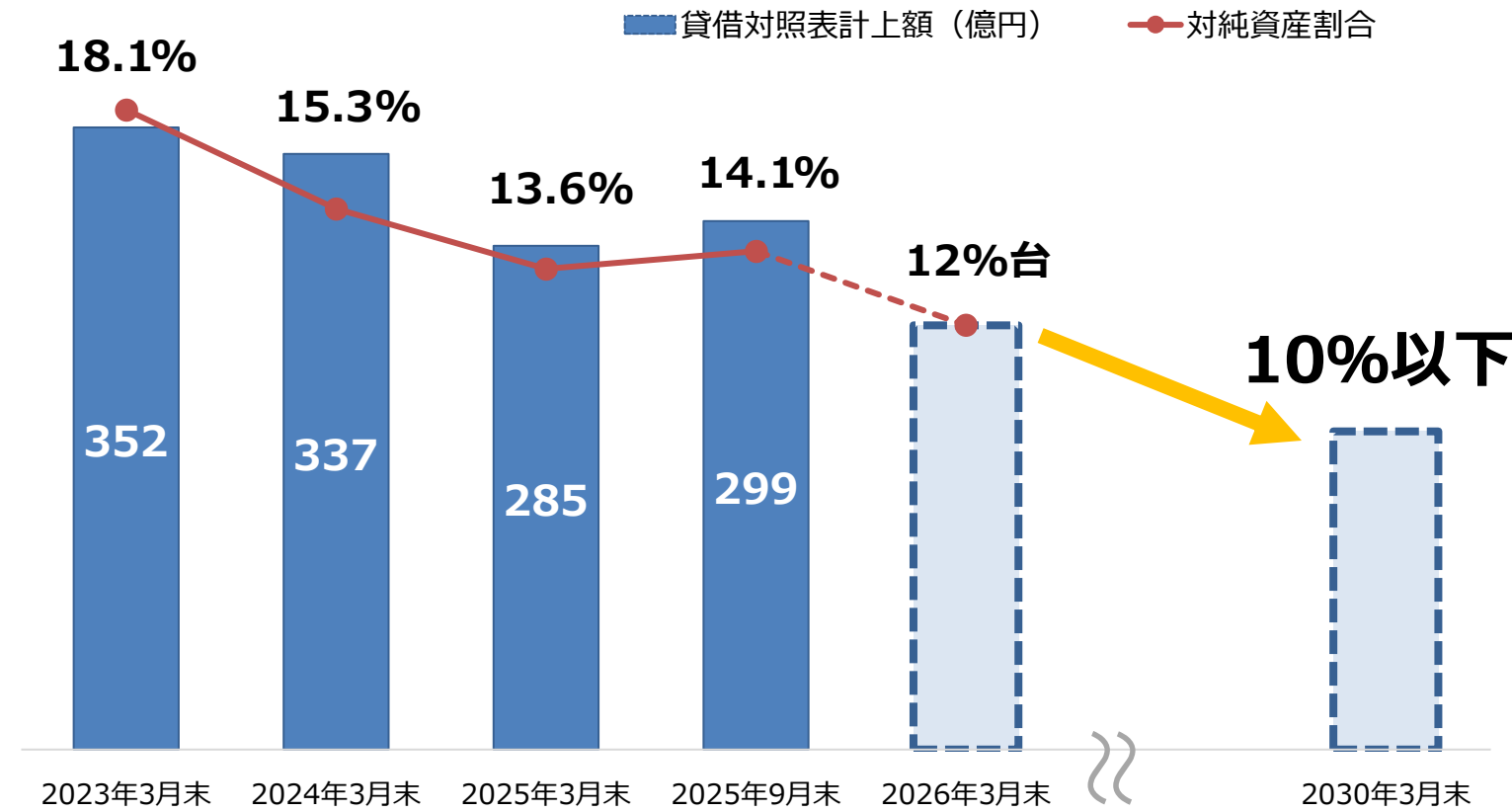
資本効率の向上と株主還元の拡充を図る

	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期 (予想)
1株当たり年間配当金	54円	56円	80円	82円	100円	120円
配当性向 (連結)	47.7%	20.0%	35.0%	33.3%	36.5%	39.3%
総還元性向	72.1%	20.0%	35.0%	86.8%	80.6%	80.2%
自己株式の取得 (取得株式数)	13億円 (60万株)			60億円 (191万株)	53億円 (140万株)	52億円 (137万株)
自己株式の消却 (消却株式数)				57億円 (250万株)	40億円 (140万株)	42億円 (137万株)

政策保有株式の縮減状況と見通し

目標

2030年3月末 10%以下



(参考)
2025年3月末を100とした場合の変動割合

	2025年 3月末	2025年 9月末
時価ベース	100	105.0
簿価ベース	100	96.9

市況により時価ベースでは割合が上昇したが、簿価ベースでは順調に縮減を実行

キャッシュ・アロケーションの進捗

KISSEI

Beyond 80 (2025~2029年度)

原資	投資先
営業CF (研究開発費控除前) 1,250億円	研究開発 1,000億円
	IT投資 200億円
	設備投資 200億円
手元金融資産 の活用 720億円	安定配当 270億円 自己株式取得 300億円

計1,970億円

2026年3月期中間期

研究開発 163億円

- Veligrotug、VRDN-003の技術導入契約締結
- 臨床開発テーマの推進
- 創薬研究の推進

IT・設備 51億円

- 基幹システムの刷新
- 松本工場新製剤棟建設
- 東京本社オフィス集約
- 松本本社中央棟建設

松本工場新製剤棟



2026年3月期中間期配当額 25億円
自己株式の取得 52億円

新薬開発状況（自社）

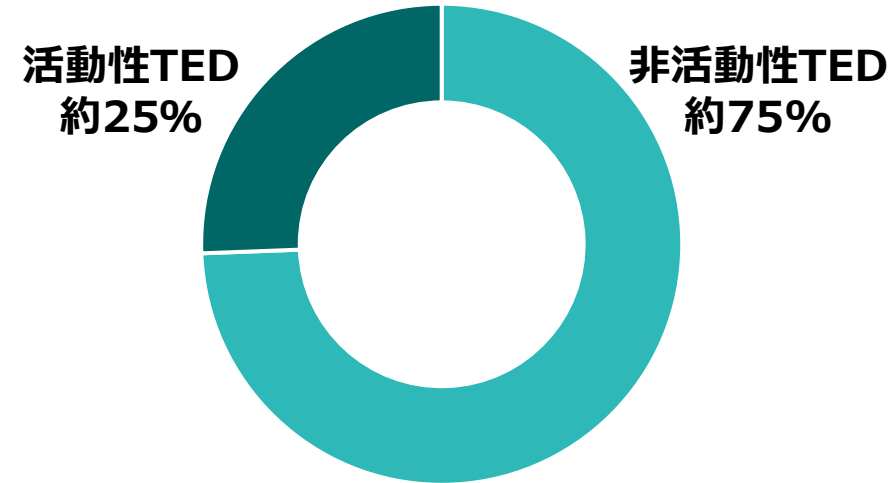
2025年11月現在

		開発ステージ							
一般名 ／開発番号	予定適応症	Phase				申請準備中	承認申請中	承認取得	開発区分等
		Pre-IND	I	II	III				
リンザゴリクス ／KLH-2109	子宮筋腫								創製品
	子宮内膜症								創製品
Cretostimogene grenadenorepvec ／CG0070	高リスク患者における 筋層非浸潤性膀胱がん								導入品／CGオンコロジー 国際共同第Ⅲ相臨床試験
ロバチレリン ／KPS-0373	脊髄小脳変性症								導入品／塩野義製薬
Matsupexole ／KDT-3594	パーキンソン病								創製品
Olutasidenib	再発／難治性 急性骨髄性白血病								導入品／ライジェル
KSP-0914 (CC-001)	バセドウ病								創製品
CC-002	過活動膀胱								創製品
	間質性膀胱炎、 膀胱痛症候群								創製品
CC-003	ナルコレプシー								創製品

：2025年5月からの変更点

定義	甲状腺眼症（TED）はバセドウ病や稀に橋本病（慢性甲状腺炎）に伴ってみられる眼窩組織※ ¹ の自己免疫性炎症性疾患であり、多彩な眼症候※ ² を呈し、重症例では複視や視力障害がみられ、Quality of Life（QOL）が著しく損なわれる。
有病者数	国内におけるTEDの有病者数は 34,913人、有病率 0.034%と推察される。
基礎疾患	TEDの基礎疾患はバセドウ病 70.8%、橋本病 9.4%である。

活動性TED・非活動性TEDの割合



活動性TED※ ³	非活動性TED※ ³
発症後6～24ヵ月間で、後眼窩組織へのリンパ球浸潤や線維芽細胞の増殖や浮腫が特徴	線維化の時期であり、重症例では視機能障害を残すことが特徴

※¹ 眼瞼や涙腺、球後軟部組織の外眼筋や脂肪組織など
※² 眼や眼の周囲の痛み、流涙、眼瞼後退、眼瞼腫脹、結膜の充血や浮腫、涙丘の発赤や腫脹、眼球突出、兎眼、複視、視力低下、視野欠損、Graefe 徴候、眼球運動障害、角膜障害（びらん、潰瘍、混濁、壊死、穿孔）、視神経症、網膜障害など
※³ 日本内科学会雑誌113巻4号628-634
(参考) : J Endocrine Soc 2024;8:1-8, 甲状腺眼症診療の手引き、バセドウ病悪性眼球突出症（甲状腺眼症）の診断基準と治療指針2023（第3次案）

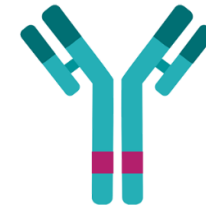
Veligrotug、VRDN-003の違いについて

- VeligrotugおよびVRDN-003は、IGF-1※受容体のヒト化モノクローナル抗体として拮抗作用する。

Veligrotug



VRDN-003



Half-life extension technology

VRDN-003はVeligrotugと同じ結合ドメインを持つ一方、一部遺伝子改変により半減期が長くなるように設計されている。

投与方法

静脈内投与

自己投与・皮下注射

用法用量

3週間ごとの5回投与、1回の注入時間30分

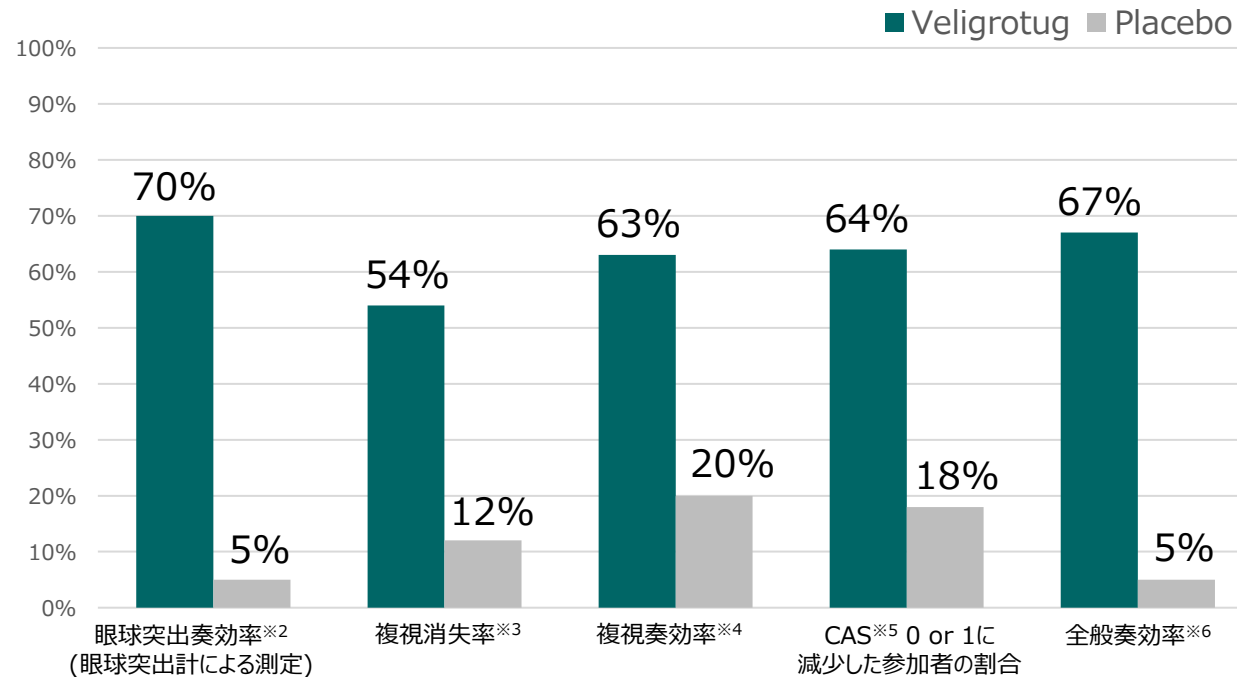
8週間または4週間ごとの投与

海外第Ⅲ相臨床試験（有効性および安全性）

THRIVE試験（活動性TED）

- Veligrotugは、活動性TED※¹において15週時点の各有効性評価項目で統計学的に有意な改善を示した。
- 15週時点で概ね忍容性が良好であった。

有効性評価項目



※¹ 対象患者: CAS ≥ 3、TED症状の発現が15ヵ月以内

※² 試験眼の眼球突出がベースラインから2mm以上減少し、僚眼の眼球突出が悪化（2mm以上増加）していない参加者の割合

※³ ベースラインで複視（ゴーマンスコア> 0）を有し、15週目にスコアが0に減少した参加者の割合

※⁴ ベースラインで複視（ゴーマンスコア> 0）を有し、15週目にスコアが少なくとも1以上減少した参加者の割合

※⁵ CAS（Clinical activity score）は7点満点で評価し、3点以上は活動性の眼症と定義

※⁶ 試験眼において、眼球突出が2mm以上減少し、かつCASがベースラインから2ポイント以上減少した参加者の割合（ただし、僚眼における眼球突出またはCASの対応する悪化（2mmまたは2ポイント以上増加）は認められない）

安全性評価項目

いずれかの群で10%以上 発現した有害事象	Veligrotug N=75, n (%)	Placebo N=38, n (%)
筋痙縮	32 (43%)	2 (5%)
頭痛	16 (21%)	5 (13%)
インフュージョンリアクション	13 (17%)	1 (3%)
聴覚障害※ ⁷	12 (16%)	4 (11%)
高血糖※ ⁷	11 (15%)	2 (5%)
疲労※ ⁷	10 (13%)	6 (16%)
悪心	10 (13%)	3 (8%)
耳不快感	9 (12%)	1 (3%)
下痢	8 (11%)	1 (3%)
脱毛症	6 (8%)	4 (11%)
月経障害※ ⁷ , ※ ⁸	8/34 (24%)	1/12 (8%)

※⁷ 標準化されたMedDRA用語集を用いて複数の用語を集約した

※⁸ 月経のある女性の割合を算出した

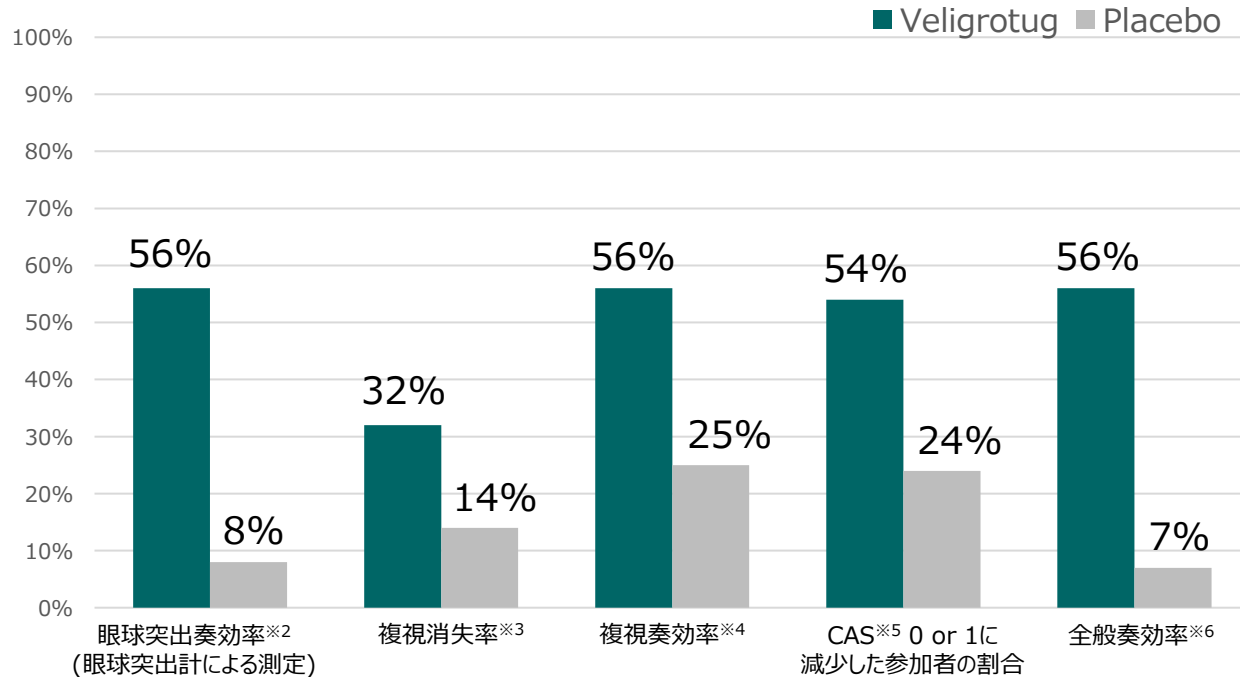
Veligrotug | 甲状腺眼症 海外第Ⅲ相臨床試験（有効性および安全性）

KISSEI

THRIVE-2試験（慢性TED）

- Veligrotugは、慢性TED※¹において15週時点の各有効性評価項目で統計学的に有意な改善を示した。
- 15週時点で概ね忍容性が良好であった。

有効性評価項目



※¹ 対象患者: CAS 0~7、TED症状の発現が15ヵ月超
※² 試験眼の眼球突出がベースラインから2mm以上減少し、僚眼の眼球突出が悪化（2mm以上増加）していない参加者の割合
※³ ベースラインで複視（ゴーマンスコア>0）を有し、15週目にスコアが0に減少した参加者の割合
※⁴ ベースラインで複視（ゴーマンスコア>0）を有し、15週目にスコアが少なくとも1以上減少した参加者の割合
※⁵ CAS（Clinical activity score）は7点満点で評価し、3点以上は活動性の眼症と定義
※⁶ 試験眼において、眼球突出が2mm以上減少し、かつCASの悪化がない参加者の割合（ただし、僚眼における眼球突出またはCASの対応する悪化（2mmまたは2ポイント以上増加）は認められない）

安全性評価項目

いずれかの群で10%以上 発現した有害事象	Veligrotug N=125, n (%)	Placebo N=63, n (%)
筋痙縮	45 (36%)	4 (6%)
頭痛	18 (14%)	8 (13%)
聴覚障害※ ⁷	16 (13%)	2 (3%)
疲労※ ⁷	15 (12%)	5 (8%)
下痢	14 (11%)	6 (10%)
高血糖※ ⁷	13 (10%)	3 (5%)
月経障害※ ^{7,8}	16/48 (33%)	2/20 (10%)

※⁷ FDA承認済みTED治療薬の手法を参考に用語を集約した
※⁸ 月経のある女性での割合を算出した

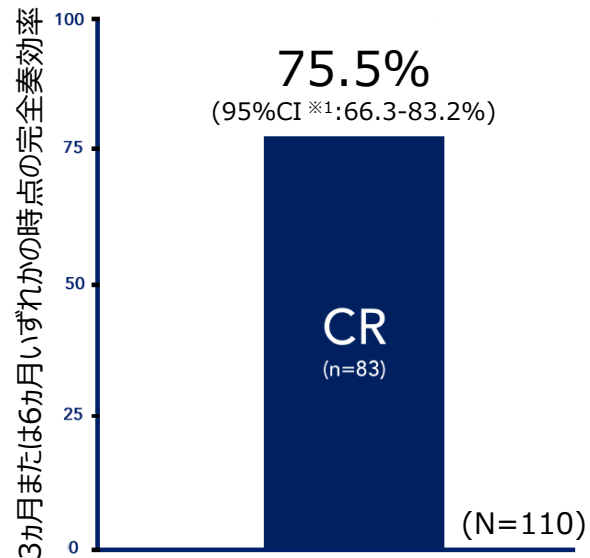
Cretostimogene grenadenorepvec | 筋層非浸潤性膀胱がん 国際共同第Ⅲ相臨床試験

KISSEI

BOND-003試験

- ほとんどの患者で膀胱がんの再発および進行を抑制、膀胱全摘除術を回避
- 副作用消失までの期間は1日（中央値）、Grade 3以上※¹の副作用発現および死亡例はなし

有効性評価項目



	完全奏効率 (95%CI※ ²)
12ヵ月時点	46.4% (36.9, 56.1) ※ ³
24ヵ月時点	41.8% (32.5, 51.6) ※ ⁴

- 24ヵ月時点のMIBC非進行率※⁵は96.6%
- 24ヵ月時点の膀胱温存率※⁶は83.6%

安全性評価項目

Cretostimogene grenadenorepvec (N=112)		
副作用発現症例数	71例	(63.4%)
主な副作用※ ⁷		
膀胱痙攣	28例	(25.0%)
頻尿	25例	(22.3%)
尿意切迫	23例	(20.5%)
排尿困難	21例	(18.8%)
血尿	15例	(13.4%)
重篤な副作用	2例	(1.8%)
中止に至った副作用	0例	(0.0%)

試験デザイン : 単群非盲検試験（国際共同第Ⅲ相試験）
対象 : 上皮内がんを有するBCG不応の高リスク筋層非浸潤性膀胱がん患者
投与方法 : 週1回×6週間（6ヵ月以降は週1回×3週間）を膀胱内投与
主要評価項目 : 3ヵ月または6ヵ月いずれかの時点の完全奏効率（CR）

2025年6月23日カットオフデータ

※¹ CTCAE Grade 3 : 重症または医学的に重大であるがただちに生命を脅かすものではない、入院または入院期間の延長を要する、身の回りの日常生活動作の制限
※² CI : 信頼区間 ※³ 12ヵ月時点 : 51/110例 ※⁴ 24ヵ月時点 : 46/110例 ※⁵ MIBC非進行率 : 筋層浸潤性膀胱がんに進行していない患者の割合
※⁶ 膀胱温存率 : 完全奏効後に膀胱全摘除術を回避している患者の割合 ※⁷ 主な副作用 : 発現率10%以上の副作用

国内開発計画

- OLT1101試験（薬物動態試験）を実施し、同等性が確認できれば、PⅡ以降の試験を実施することなく承認申請予定
- OLT1201試験（Olutasidenibの日本人患者を対象とした試験）を実施し、本剤への早期患者アクセスを確保する

各試験と申請時期

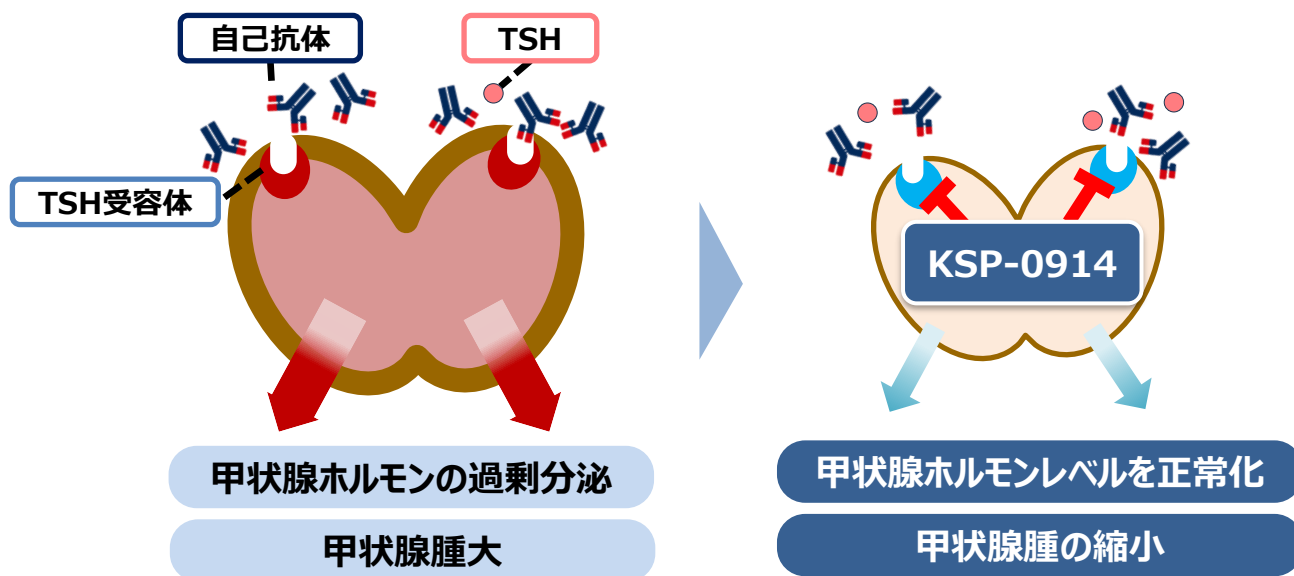
海外AML※1試験		完了
OLT1101試験		
対象	: 健康成人（日本人・白人）	
目的	: 日本人・白人の薬物動態を確認	
主要評価項目	: 薬物動態	
目標症例数	: 24例	
実施スケジュール	: ～2026/3/31	
		海外の有効性結果および OLT1101試験の薬物動態結果を 踏まえ承認申請予定
OLT1201試験		
対象	: r/r※2 IDH1変異陽性日本人AML	
目的	: 日本人患者の安全性を確認する （日本人患者のアクセスを確保する）	
主要評価項目	: 安全性	
目標症例数	: 3例以上（承認申請まで登録）	

KSP-0914 (CC-001)

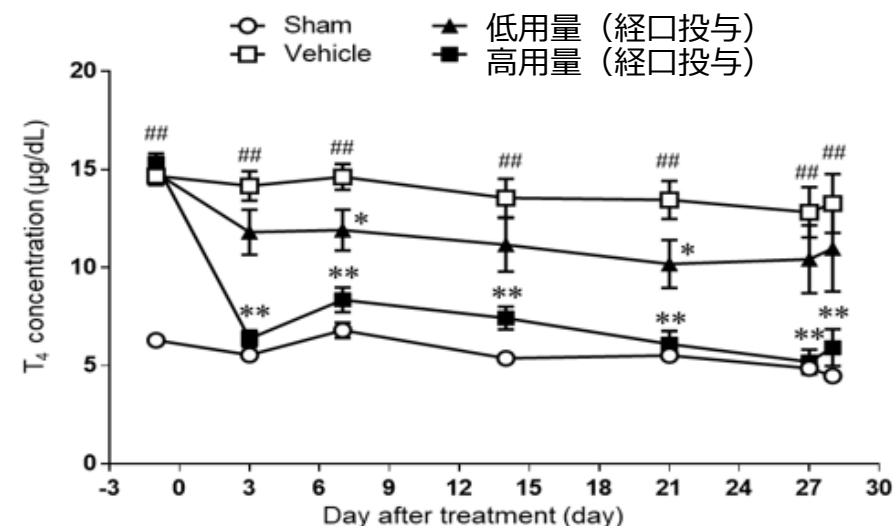
KSP-0914：甲状腺刺激ホルモン（TSH）受容体選択的アロステリック阻害薬

- バセドウ病は頻脈、体重減少、手指振戦、発汗増加等、びまん性甲状腺腫、眼球突出等の眼症状を呈する。
- バセドウ病の原因となる自己抗体※¹によるTSH受容体の活性化を抑制することで、甲状腺ホルモンの速やかな正常化と甲状腺腫の縮小作用を発揮する。
- バセドウ病モデルマウスを用いた試験において、投与後短期間で甲状腺ホルモンを正常化した。

バセドウ病とKSP-0914の作用機序



バセドウ病モデルマウス※²に対する甲状腺ホルモン（T₄）低下作用



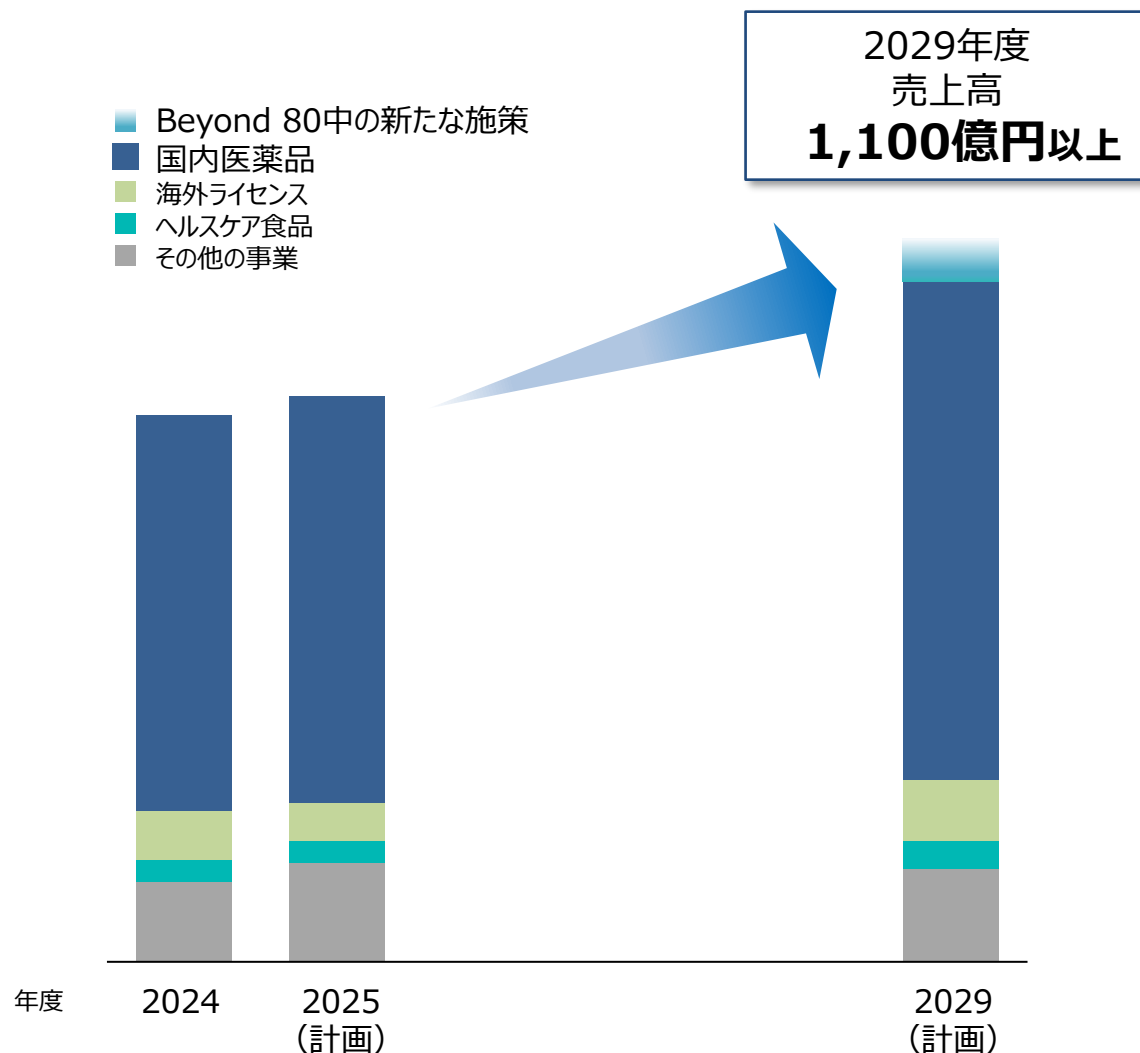
Mean ± S.E. (n = 9-12), ##: p < 0.01 vs Sham, *: p < 0.05, **: p < 0.01 vs Vehicle

※¹ 抗TSH受容体抗体

※² バセドウ病モデルマウス：マウス的大腿筋内にヒトTSH受容体Aサブユニットを組み込んだプラスミドDNAを導入し、自己抗体を産生させたモデル

Beyond 80 期間中の売上高拡大に向けて

KISSEI



Beyond 80中の新たな施策

- Beyond 80期間中に獲得した新たな成長ドライバーによって、売上高**1,100億円以上**を目指す。
 - Veligrotug、VRDN-003

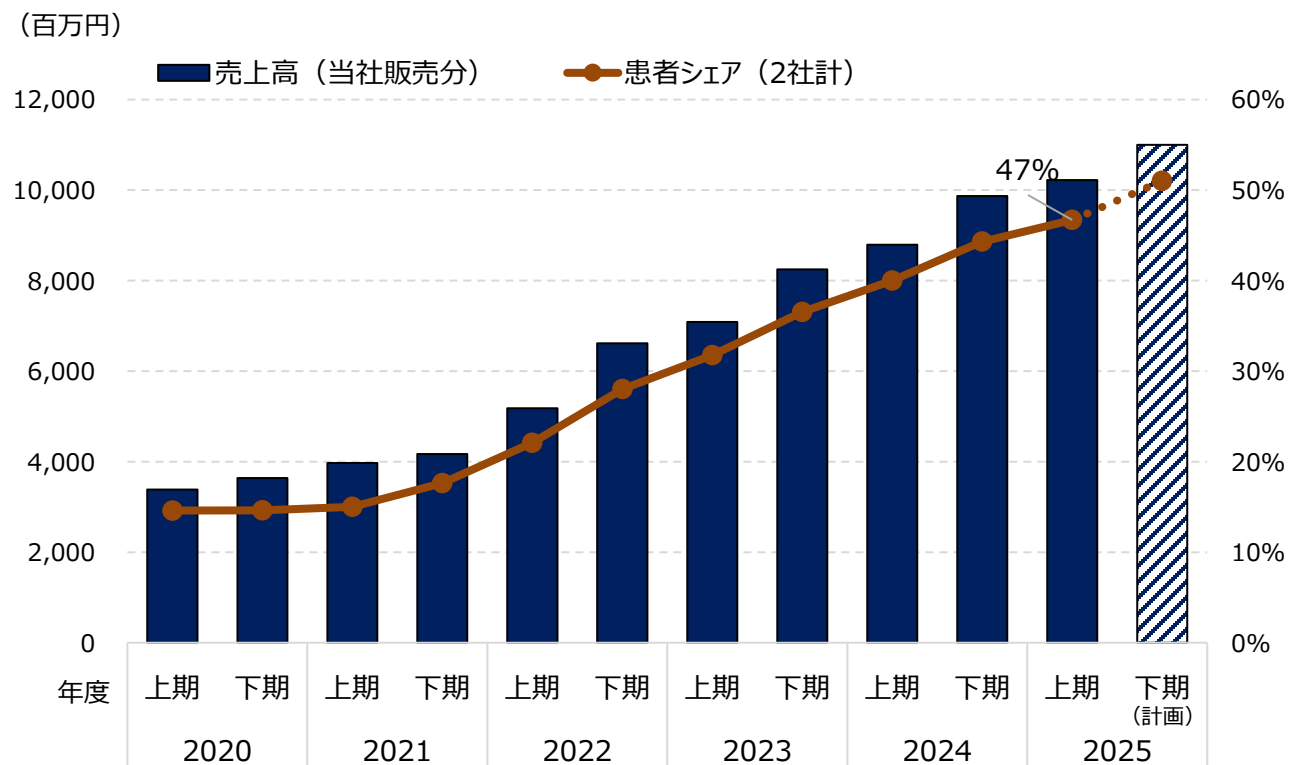
国内医薬品の持続的な拡大

- 主力製品の売上最大化
 - ベオーバ、タブネオス、コルスバ、タバリス、カログラ
- 4品目6適応症の上市と育成
 - リンザゴリクス（子宮筋腫、子宮内膜症）
 - Cretostimogene grenadenorepvec（高リスク／中リスク筋層非浸潤性膀胱がん）
 - ロバチレリン（脊髄小脳変性症）
 - Olutasidenib（急性骨髄性白血病）

ベオーバ | 過活動膀胱治療薬

KISSEI

売上高（当社販売分）と患者シェア※¹推移（2社計）



OAB※²の第一選択薬として、患者シェア50%へ

ガイドライン

「高齢者の安全な薬物療法GL2025」において、高齢者に対して開始を考慮すべき薬物としてベオーバが推奨されている。

プレゼンス

泌尿器科医師を対象に優れたMRの第2位を獲得した。（ミクス2025年2月号掲載）

疾患啓発

症状検索エンジン「ユビー」を通じた、過活動膀胱に対する疾患啓発プロジェクトを開始した。

2025年度 計画 210億円
（前期比：+13%）

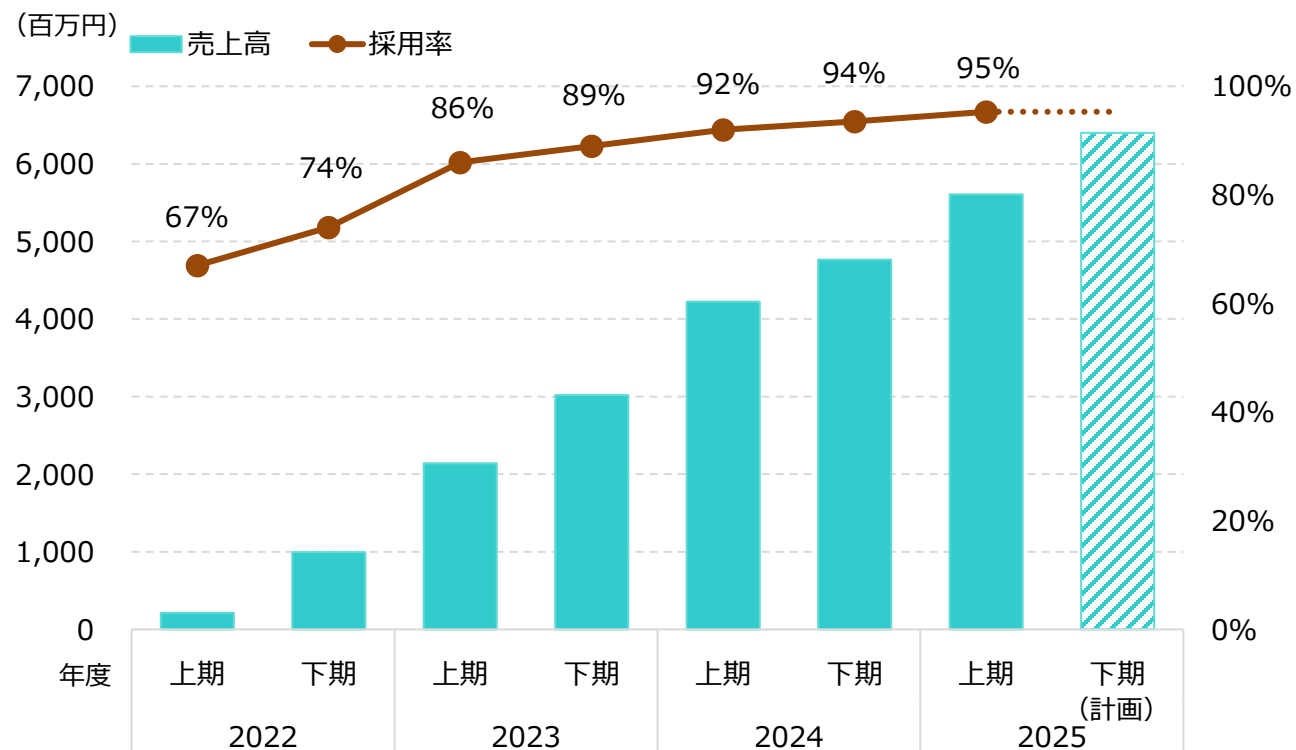
※1 過活動膀胱治療薬患者シェア JPM PATDY 2020/4-2025/8 をもとに自社集計、無断転載禁止 Copyright © 2025 IQVIA.

※2 OAB：過活動膀胱

タブネオス | MPA※1・GPA※2治療薬

KISSEI

売上高と採用率



2025年度 計画 118億円
(前期比 : +31%)

ANCA関連血管炎治療の標準治療薬へ

ガイドライン

「ANCA関連血管炎診療ガイドライン2023」において、寛解導入治療では高用量ステロイドよりもタブネオスが推奨されている。

エビデンス

製造販売後調査の中間結果やReal world dataの集積を行っている。

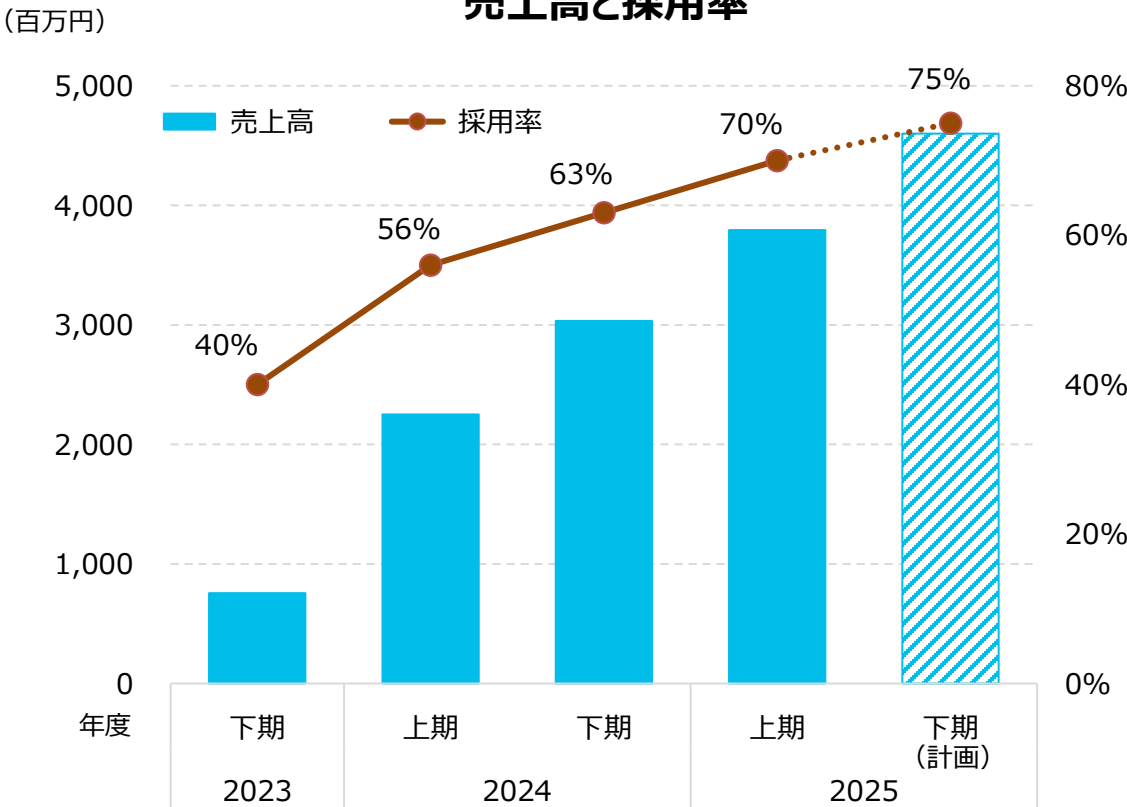
情報提供体制

レアディーズ統括部の拡充による希少疾病・難病領域の活動を強化した。

コルスバ | 透析患者におけるそう痒症治療薬



売上高と採用率



2025年度 計画 80億円
(前期比 : +51%)

透析そう痒症におけるオピオイド作動薬の第一選択薬へ

認知拡大

発売以降の累積採用率は70%を超え、透析施設の医療従事者の認知度が向上した。

疾患ニーズ

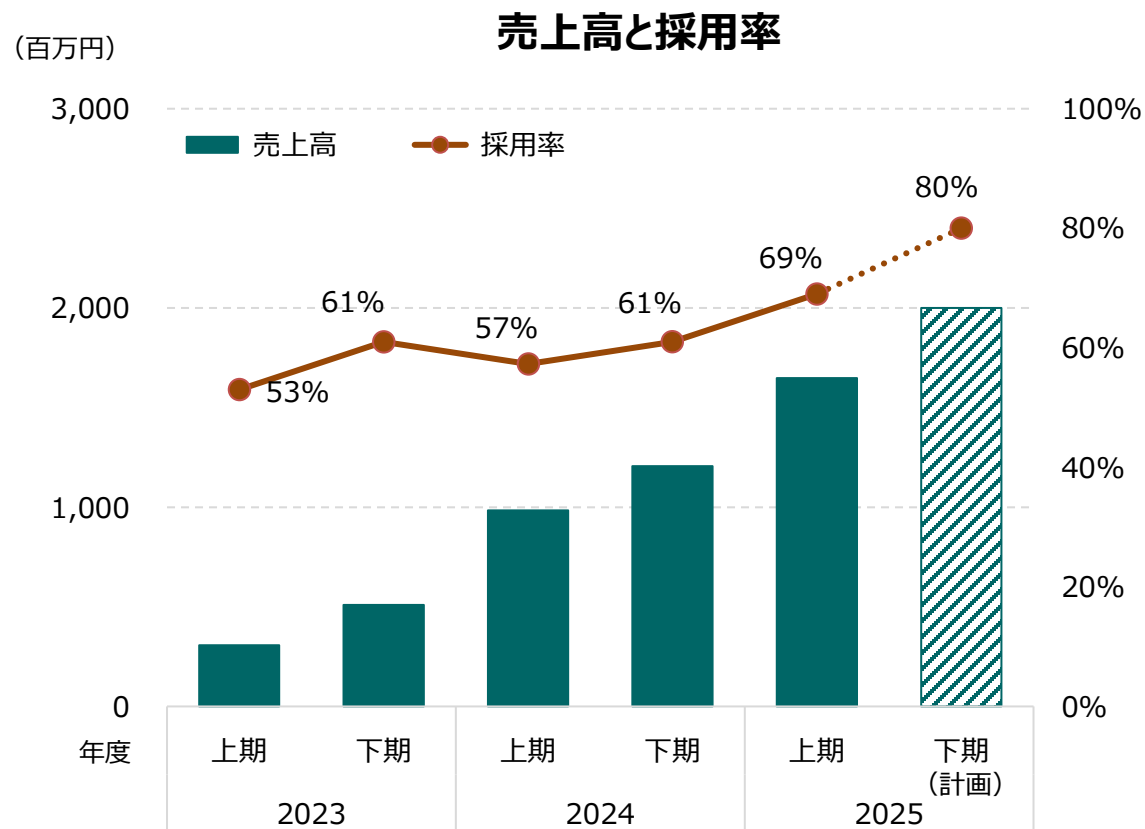
透析そう痒症患者の治療満足度は約50%と低く、治療ニーズが高い。

プレゼンス

約30年にわたる透析領域での活動と複数製品による治療に貢献している。

タバリス | 慢性ITP※治療薬

KISSEI



2025年度 計画 37億円
(前期比：+69%)

慢性ITP治療におけるセカンドライン治療薬へ

認知拡大

学会や講演会、デジタルプロモーション等により医療従事者との面会機会創出が進み、発売以降の累積採用率69%に上昇した。

エビデンス

製造販売後調査の中間結果を発表した。

情報提供体制

レアディーズ統括部の拡充による希少疾病・難病領域の活動を強化した。

リンザゴリクスのグローバル展開

KISSEI

■ 欧州※1での発売国拡大（2025年9月時点）

ドイツ、スペイン、ポーランド、イタリア、英国、ベルギー、マルタ、ルクセンブルク

■ カナダにおけるライセンス契約の締結

2025年10月にサーチライト社とカナダにおける開発および販売権を許諾するライセンス契約を締結

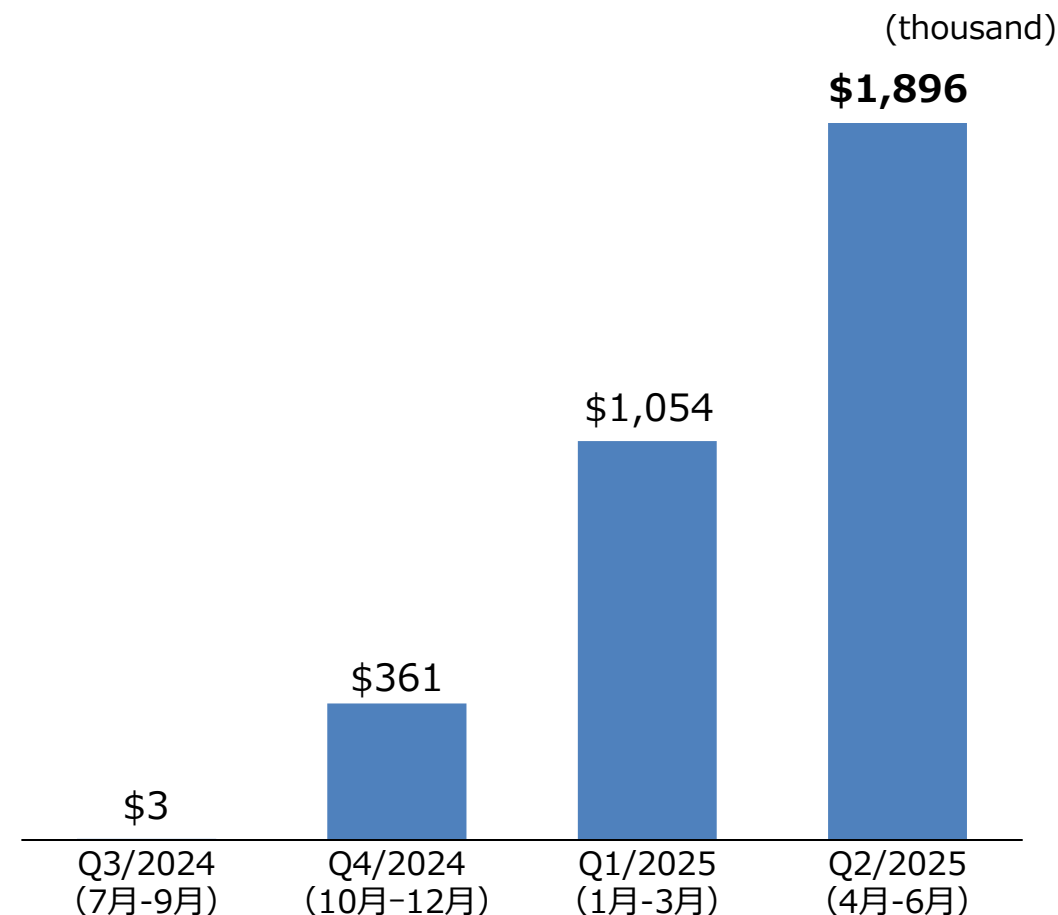
■ 台湾※2での販売承認取得

2025年10月に「子宮筋腫」の適応で販売承認取得

■ 韓国※3での第Ⅲ相臨床試験開始

2025年9月に「子宮筋腫」の適応で試験開始

欧州におけるリンザゴリクスの売上推移※4



※1 海外パートナー セラメックス社

※2 海外パートナー シンモサ社

※3 海外パートナー JWファーマ社

※4 IQVIA MIDAS（2024/9-2025/6）をもとに自社集計、無断転載禁止、Copyright © 2025 IQVIA.

セラメックス社による学会を通じた普及活動

KISSEI

■ 欧州各地の学会でブース、セミナーを開催

- ✓ 子宮内膜症・子宮疾患学会 (SEUD)
- ✓ 子宮内膜症ワールド कांग्रेस (WCE)
- ✓ 欧州婦人科学会 (EBCOG)
- ✓ 英国婦人科協会 (RCOG) 等

SEUD (4月24日~25日 チェコ・プラハ)



■ 欧州でのリンザゴリクスに対する医師からの評価

- ✓ アドバック療法の有無に因らず使用できる柔軟性
- ✓ 効果の早さ (症状の速やかな改善)
- ✓ 他剤効果不十分例での有効性
- ✓ 筋腫の縮小効果



新薬開発状況（導出）

2025年11月現在

			開発ステージ						
一般名	予定適応症	実施国・地域	Phase			申請準備中	承認申請中	承認取得	提携企業
			I	II	III				
リンザゴリクス	子宮筋腫	台湾							シンモサ
		4カ国※1						セラメックス	
		韓国						JWファーマ	
	子宮内膜症	3カ国※2						セラメックス	
シロドシン	前立腺肥大症に伴う 排尿障害	ベトナム、 他							エーザイ

➡ : 2025年5月からの変更点

※1 スイス、ブラジル、イスラエル、南アフリカ共和国

※2 ブラジル、イスラエル、南アフリカ共和国

マテリアリティの解決を進め「企業の持続可能な成長」と「企業価値の向上」を実現する

Beyond 80（2025～2029年度）

1. 将来に向けた成長投資
2. 創薬テーマの拡充と成長ドライバーの獲得
3. 国内医薬品の拡大と成長
4. 海外ライセンス収入の拡大

PBR	1倍超
ROE	8%以上
EPS	400円以上
売上高	1,100億円以上
研究開発費控除前 営業利益	290億円以上

創薬研究開発型企业としての成長（2030～2034年度）

1. 創製品の継続的な上市により医薬品事業を拡大。
2. 創薬を中心に、研究開発パイプラインを拡充。
3. 新たな海外収益基盤を構築。
4. 環境経営を推進し、脱炭素・循環型社会の実現に貢献。

ROE	10%以上
10年平均 成長率 (CAGR)	売上高 5%以上
	研究開発費控除前 営業利益 10%以上

ガバナンスの強化

経営戦略を実現する創造性のある人材の育成

環境問題を意識した事業活動の推進

かけがえのない命のために、 たくさんの笑顔と出会うために

美しい自然と人の暮らしが響き合う、まるでシンフォニーのように。
キッセイ薬品はこの信州で、新薬の研究開発に取り組んでいます。



本資料記載の将来見通しは、既存の情報や様々な動向についてのキッセイ薬品による2025年11月時点での分析に基づいています。実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により見通しと異なることがあります。

医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。